



新緑の季節をクラシックと♪

『モーツァルトはおことわり』マイケル・モーパーゴ/作
(スタッフ・H)

音楽を読む

ナチス強制収容所で、楽器のできる囚人がオーケストラを演奏させられていたことをご存知でしょうか。この本はそんな、音楽を武器に戦った人たちのお話です。それはとても辛い記憶となり音楽家が罪のない音楽を封印するまでに至るのですが、語り手のパオロは「もっとも悲しい、そしてもっとも幸せな物語」と印象的な表現をしています。この言葉通りの美しい結末に、水辺で音楽を聴きたくなる読後感が湧き上がりました。登場人物たちの背景が折り重なって物語が出来上がっていく様が、モーツァルトも数多く手がけた、交響曲の構成をどこことなく連想させてくれます。優しい色彩で描かれた、音楽と平和への祈りが込められた今だからこそ読みたい一冊。



『モーツァルトはおことわり』
マイケル・モーパーゴ/作 マイケル・
フォアマン/絵 さくま ゆみこ/訳

出版社:岩崎書店
請求記号:K933f
駅南図書館所蔵あり

ナクソスに
ログインして
アクセス!



モーツァルトが五歳の時に作ったといわれている『アンダンテ ハ長調 K.1a』
バンジャマンがパオロの前で初めて路上演奏した曲と推測できますね。ナクソスでは
この曲を含むモーツァルトの作品が、年代順に振られたケツヘル番号でも検索できま
すので、是非お試しください。

クラシックにふれよう

交響曲第九番「新世界より」ドヴォルザーク(スタッフ・M)

この曲は1893年12月16日にニューヨーク・フィルハーモニーで初演後、前代未聞の大成功をおさめました。ドヴォルザークは1841年にボヘミアのネラホゼヴェス村で宿屋兼肉屋の長男として生まれました。プラハのオルガン学校を卒業後、ヴィオラ奏者として作曲もしていましたが、非凡な才能が認められてプラハ音楽院教授を務めた後、ニューヨークのナショナル音楽院の院長に就任をしたため、渡米しました。アメリカ滞在中の1893年1月10日～5月24日にこの曲は作曲され、黒人霊歌などの影響を受けた、アメリカとチェコの要素を見事に統合した作品が誕生しました。当時の聴衆を熱狂させたふくよかなメロディーは、現代の聴衆の心も魅了することでしょう。

参考『ドヴォルザーク—その人と音楽・祖国』黒沼ユリ子 富山房インターナショナル 2018年 行徳所蔵
『ドヴォルザーク』内藤久子 音楽之友社 2004年 駅南所蔵
『チェコ音楽の魅力』内藤久子 東洋書店 2007年 中央所蔵

ナクソスに
ログインして
アクセス!



実はこの交響曲は、初演前から真のアメリカ音楽として期待され、注目を集めていました。4楽章から構成される新しくもどこか懐かしい調べは、誰でも一度は耳にしたことがあるかもしれません。様々な演奏をナクソスでお楽しみください。



本棚に残る楽譜 (スタッフ・W)

音楽とわたし

編集担当のひとこと

家の片づけをしていた時、ピアノの楽譜が出てきた。ピアノは10年近くやっていたが、あまり情熱はなく、さらに練習が嫌いで、ずっと下手なまま。最後に習った曲は、ショパンの『子犬のワルツ』だったけれど、「軽やかに」とは程遠く、たどたどしいワルツのまま終わったように思う。ピアノにあまりいい思い出はないけれど、出てきた楽譜を見ると、懐かしい気持ちにはなる。指の基礎練習本、ブルグミュラーの練習曲、ソナチネ…。中を開けば、先生からの指摘が書かれ、出来た曲には花丸がついている。懐かしい気持ちのまま、練習曲を少しだけ弾いてみる。楽譜がすんなり読めなくなったと思いながら最後まで。別室で聞いていた母が、「なんとか弾けたじゃない」と、一言。下手なりに少しは身についたようである。当分弾くことはないと思いつつも、楽譜は処分せず、再び本棚にしまうこととなった。



お出かけにもよい季節となりました。ここ数年出来ていなかった旅行を計画したり、実際に行かれた方も多いのではないのでしょうか。ふとしたときに音楽が頭の中で自動再生されてその瞬間にピッタリの曲が流れていることがありますか？そんな音楽体験を豊かにするのにもナクソスはお役に立ちます。是非ご利用ください。(O)